

アメリカ建国初期の銀行の貸借対照表についての若干の考察 ——北アメリカ銀行の1796年8月25日付貸借対照表を中心として——

松 本 幸 男

I. はじめに

II. 北アメリカ銀行の1796年8月25日付の貸借対照表の分析

III. む す び

I. はじめに

北アメリカ銀行the Bank of North Americaは、アメリカ独立戦争の末期、イギリスからまさに独立しようとするアメリカ合衆国において財務総監ロバート・モリスRobert Morrisによって、革命政府である大陸会議the Continental Congressの財政再建のために、1781年12月31日に大陸会議から銀行会社設立特許状を付与されて国立銀行National Bankとして設立された。当時、民間への貸付機能をも兼ね備えた、中央政府への貸付機関が国立銀行と呼ばれるものであった。同銀行は、資本金40万ドル（1株400ドル、正貨払込み）

の正貨銀行であり、大陸会議への貸付ならびに手形割引による民間への貸付をおこない、これらの貸付を通して兌換銀行券を発行するアメリカ最初の近代的商業銀行であった。同銀行は、フィラデルフィアにおいて1782年1月7日に開行した¹⁾。

北アメリカ銀行は、同銀行の後設立されてくるマサチューセッツ銀行（1784年設立）、ニューヨーク銀行（1784年設立）、それにアメリカ合衆国初代財務長官アレグザンダー・ハミルトンAlexander Hamiltonが1792年に国立銀行として設立することになる第1次合衆国銀行の経営的モデルとなり、ひいては建国初期

1) 拙稿「北アメリカ銀行とモリス財政(1)」『龍谷大学経済経営論集』第23巻第3号、163-171 ページ。同「北アメリカ銀行とモリス財政(2)」『龍谷大学経済経営論集』第24巻第1号、94-112 ページ。

周知のように大陸会議は、独立戦争遂行の戦費として不換紙幣fiat moneyである大陸紙幣Continental Currencyを発行し、この大陸紙幣の発行に大陸会議財政は大きく依存した。しかし大陸紙幣は、その大量発行によって急激な減価を引き起こし、1780年には通貨としての機能を果たさなくなった。他方、国内借款もままならぬ事態であった。その結果、公信用は失墜し、大陸会議の戦争財政は破綻をきたした。そこで財務総監モリスは、機能しなくなった不換紙幣体制を廃して正貨体制に切り換えて、その体制を基礎にしてまず早急に国立銀行（正貨銀行）を設立する。その銀行から借入を行う。各邦に正貨分担金を要請する。さらに補足手段としてモリス・ノート（公の立場でモリスが後日正貨で償還することを約束した手形）を発行する。そして、早急に中央政府租税を創設してそれを元利支払い基金として、元利支払いが滞っている膨大な内外の戦時債務を整理統合し、新規公債に借換えることによって公信用を確立し、内外からの資金調達を容易にできるようにする、といった財政再建策を展開した。このような財政政策の主要政策手段の一つである国立銀行設立政策が北アメリカ銀行の設立であった。

大陸会議による銀行の設立は連合規約に違反するという議論が根強よかったので、大陸会議の銀行設立特許状付与の後、同銀行が所在するペンシルヴェニア邦の邦議会が1782年4月1日に銀行設立特許状を同銀行に付与した。第1次合衆国銀行の設立に際しても連邦議会による銀行の設立は憲法に違反するということが主張されて、論戦がおこなわれたことは周知のところである。

北アメリカ銀行は、国立銀行として出発しながらも、短期間のうちに国立銀行としての機能をやめ、一民間銀行として営業をし続けていくこととなった。同銀行は、1929年にthe Pennsylvania Company for Insurances on Lives and Granting Annuities に吸収合併されるまで147年間営業を続けた。Bray Hammond, *Bank and Politics in America: from the Revolution to the Civil War*, Princeton University Press, 1957, reprinted 1985, pp.63-64.

の商業銀行の経営的モデルとなった銀行であった。人脈的に見ても、北アメリカ銀行の初代総裁トーマス・ウィリングThomas Willingは第1次合衆国銀行の初代総裁となった。しかも北アメリカ銀行の12人の取締役のうちの2名は第1次合衆国銀行の取締役に就任した。

そこで、本稿は、フィラデルフィア市のペンシルヴェニア歴史協会所蔵の北アメリカ銀行の貸借対照表(State of the Bank[MSS], 1792-1796年)の中の1796年8月25日付の貸借対照表を中心として²⁾、その若干の考察をすることによって、アメリカ建国初期の銀行の経営的特質を実証的に明らかにすることを目的とするものである。アメリカ建国初期の銀行についてのわが国での実証的研究は第1次合衆国銀行についてしかおこなわれていないので³⁾、アメリカ建国初期の金融史、経済史研究にささやかな一助を提供するものと考えてる。

Ⅱ 北アメリカ銀行の1796年8月25日付の貸借対照表の分析

第1表は、1796年8月25日付けの北アメリ

カ銀行の貸借対照表State of the Bank 25th August 1796である。同表の上段は資産勘定であり、下段は資本・負債勘定である。実際は、見開きになっており、左側が資産勘定になっており、右側が資本・負債勘定になっている。この貸借対照表を整理したものが、第2表である。以下、第2表にしたがって、各

第1表 北アメリカ銀行1796年8月25日付
貸借対照表 (ペンシルヴェニア歴史協会所蔵)

State of the Bank	
Bills discounted outstanding	1,742,732 27
Loan to the State	21,676 71
Specie	160,511 49
Balance in Bk Penna	110,608 90
Balance in Bk N.Y.	1,376 06
Total	2,036,905 43
25th August 1796	
Amount of Stock	742,800
Notes in Circulation	582,294 43
Balance due Bk US	94,194 80
Discount	14,474
Deposit Money	603,141 42
Total	2,036,905 43

第2表

State of the Bank 25th August 1796.

(単位：ドル)

Bills discounted outstanding	1, 742, 732	27	Amount of stock	742, 800	
Loan to the state	21, 676	71	Notes in Circulation	582, 294	43
Specie	160, 511	49	Balance due Bk US	94, 194	80
Balance in bk penns ^a	110, 608	90	Discount	14, 474	78
Balance in bk nyk	1, 376	06	Deposit Money	603, 141	42
	2, 036, 905	43		2, 036, 905	43

出所：State of the Bank 25th August 1796.

2) 田島恵児『ハミルトン体制研究序説』勁草書房、1984年、216-350 ページ。

3) 1792年から1796年の貸借対照表の中から任意に選んだ。

4) Directors' Minutes, November 4, 1782(MSS).

勘定項目について考察しよう。

1 資産勘定について

「Bills discounted outstanding」は、手形割引残高勘定である。約束手形あるいは為替手形の割引残高である。この時点で1,742,732.27ドルである。同銀行は、割引期間60日以内、一ヵ月につき0.5パーセントで、同銀行に預金を持っている支払保証人2名を持つ為替手形あるいは約束手形を割引いた⁴⁾。

それでは同銀行は、誰を対象にして割引業務をしたのか。1796年の手形割引帳を見出すことができなかったのが残念であるが、同銀行の1782年から1785年までの手形割引帳が手元にあるので、ここから推測したい。そこでこの手形割引帳⁵⁾を一ヵ月毎に整理して分析してみると、ほとんどの月において、割引高2,000ドル以上の割引依頼人（その月の割引依頼人総数の2割から3割）が、その月の割引総額の6割から7割を占めており、かれらが手形割引業務の主要顧客であったことがわかる。主要顧客として、Robert Morris, James Wilson, Thomas Fitzsimons, William Binghamなどの人物が見出される。第3表は、1784年3月の手形割引帳を整理して手形割引依頼人を割引額の多寡順に配列したものである。これを見るとわかるようにRobert Morris, Thomas Fitzsimonsの名前が手形割引依頼人の上位者として見出される。かれらは、この84年3月以外の年月においても常時手形割引依頼人の上位者として顔をだしている。第3表にはJames Wilson, William Binghamの名前は見出されないが、84年3月以外の年月にしばしば手形割引依頼人の上位者として顔をだし

ている。そこで、これら人物の経歴を少々紹介すると次の如くである。

Robert Morris は、フィラデルフィアの貿易商人であり、本稿の冒頭で述べたように財務総監であり、北アメリカ銀行を創りだした人物である。かれは、1784年11月以降、財務総監の公職を離れ、商業活動に復帰した。かれの活動をみると、まずモリスは、フィラデルフィア商人John Vaughanと共にニューヨーク、ニュージャージー、ペンシルヴェニア、デラウェア、メリーランド各邦において土地投機業を計画する⁶⁾一方で、1783年12月、Daniel Parker（マサチューセッツ、Watertownの貿易商人）とパートナーシップを組み中国貿易に従事した⁷⁾。また同時にモリスは、上述のDaniel Parker およびスペインのCadizのMercy and Lacaze and Fils 商会のフィラデルフィア代理店Lacaze & Mallet（第3表に上位の手形割引依頼人として見られる）とパートナーシップを組みヨーロッパ貿易に従事した⁸⁾。しかし、この貿易が終了した頃、Parkerの破産により、かれらのビジネス関係は終わるに至った⁹⁾。その後、モリスは、1784年1月、ボルティモアのTench Tilghmanとパートナーシップを組みTench Tilghman商会を設立して大々的にヨーロッパ貿易に乗り出すこととなった¹⁰⁾。続いてモリスは、1784年5月、ニューヨーク商人William Constable およびJohn Ruckerのニューヨークの商会William Constable, John Rucker and Companyに投資し、その商会のパートナーになり、この商会をベースにしてフランスへのタバコ輸出独占に乗り出した¹¹⁾。しかし、この対仏タバコ輸出独占は、トーマス・ジェファソン、ヴ

5) Discount Ledgers, 1782-1785(MSS).

6) Max M. Mintz, *Gouverneur Morris and the American Revolution*, the University of Oklahoma Press, 1970, p.163.

7) Clarence L. VerSteeg, *Robert Morris ; Revolutionary Financier with an analysis of his earlier career*, University of Pennsylvania Press, Philadelphia, 1954, p.189.

8) Mintz, *op. cit.* p.163.

9) VerSteeg, *op. cit.* p.189.

10) *Ibid.*, p.190.

11) Barbara Ann Chernow, *Robert Morris : Land Speculator 1790-1801*, Arno press, New York, 1978, p.28.

12) Chernow, *op. cit.* p.30.

エルジェンヌComte de Vergennesおよびラファエット等からの反対に会い、崩されるに至った。¹²⁾ その結果、対仏タバコ貿易からは思いどおりの収益があららず、他方、タバコ

第3表 1784年3月の手形割引高

1 7 8 4 年 3 月				
順位	手形割引依頼人	手形割引高 (F. A.)		
1	Robert Morris	30300	38	Matts Keely 3295
2	John Swanwick	25400	39	Thomas Salter 3271
3	Haym Salomon	22135	40	James Hood 3258
4	Henry Hill	16000	41	Step. Cerone (?) 3200
5	Thomas Fitzsimons	15533	42	Moses Cohen 3198
6	Wm. Alexander & Co.	14000	43	Duan & Purviance 3114
7	Willing Morris & Swanwick	12867	44	Jno. & W. Montgomery 3018
8	Sam. Howell	10900	45	Colins & Fuxton 3000
9	C. Biddle & Co	10310	46	Nixon & Clarkson 2950
10	J. Wd. & Wm. Gibbs	10033	47	Henry Pratt 2710
11	Murd. Lewis & Co.	9096	48	Mar. Slough 2700
12	Lacaze & Mallet	9052	49	Wm. Sykes 2687
13	Jno. Hood	9047	50	John Wilcocks 2667
14	Wm. Duer	8000	51	Kuhn & Risberg 2547
15	J. Holker	7933	52	Ad. Lantinger 2456
16	Geo. Meade	7830	53	John Jones 2400
17	Win. Bell	7800	54	Robert Budges 2400
18	Geo. Eddy	7777	55	Richard Mason 2305
19	Geo. Henry	7362	56	Wm. Wister 2200
20	Basse & Soxye	6844	57	Thomas Franklin 2197
21	J. W. Stanley & Co.	5033	58	Wm. Sheaff 2181
22	Lamb. & Cleeckley	4910	59	Abel. James & Sons 2084
23	Donaldson & Cox	4792	60	Haynes & Crawford 2062
24	Town & Jno. White	4526	61	Wm. Barton & Co. 2056
25	Onpay painniere	4512	62	D. Lagourgue 2000
26	Spencer & Marachu	4511	63	Ezra. Jones 2000
27	Phileman Dickenson	4453	64	James Wilson 2000
28	Sam. C. Morris & Co.	4223	65	Thomas Lowrey 2000
29	Stewart & Nesbitt	4000	(29%)	
30	Robert Smith	3871		
31	Ben. Davis Jr.	3850		
32	Peter Knight	3801		
33	L. Hollingsworth	3654		
34	Geo. Bickham	3644		
35	Samuel Jackson	3600		
36	Reed & Forde	3500		
37	Hewes & Anthony	3333		
			223 (100%)	Andw. 7 mer 48
				† 678296 (100%)

出所：Discount

出所: Discount
Ledgers, 1784. より作成

買い付けのために大量に振りだされたモリス手形が償還されることができず、結局、モリスはタバコ貿易によって大きな負債をかかえることになり、かれの対仏タバコ独占貿易は失敗に終わった¹³⁾。そこでこの失敗を補い一層の儲けを得ようとしてモリスは、1790年代、ペンシルヴェニアおよびニューヨークの西部地ならびにワシントンD. C. に大々的に土地投機をおこなうこととなった。しかし、この土地投機業も最終的には失敗に帰し、かれは1798年破産においやられるに至った¹⁴⁾。

James Wilsonは、大陸会議議員 (1783年、1785年—1786年)、合衆国憲法制定会議代議員をも勤めた、貿易商人を顧客とするフィラデルフィアの法律家 (弁護士) であり、また

土地投機業者でもある。同銀行の取締役 (1781年—1784年) でもあった。1782年、かれは、ペンシルヴェニア西部に大規模に土地投機をおこなった。また同年、かれは、Mark Bird (ペンシルヴェニアの製鉄業者) と共同してデラウェア河沿いに所在する製鉄所を購入した。1785年にはWilsonは、この製鉄事業を拡張するためにオランダ資本家に50万フローリンの借款を申し出ている。一方同年、かれは、様々の西部土地会社に利害を持ち、the Illinois and Wabash 土地会社の総裁でもあった。さらに、1792年—93年にもかれは、the Holland Land会社に関係し、ペンシルヴェニアおよびニューヨーク西部地数十万エーカーに投資した。さらに1795年には、Yazoo 土地会社の利権を大量に購入した¹⁵⁾。

Thomas Fitzsimons は、フィラデルフィアの貿易商人であり、同銀行の取締役 (1781年—1803年) でもある。かれは、同銀行の取締役の他に、北アメリカ海上保険会社の取締役でもあり、また第1次合衆国銀行の取締役でもあった。またかれは、モリスの土地投機業にも参加した。しかし、1805年にかれは破産に追いやられた¹⁶⁾。

William Bingham は、フィラデルフィアの貿易商人である。同銀行の取締役 (1781年—1784年) でもあった。かれは、独立戦争中、モリスのパートナーとして西インド貿易に従事し巨額な富を築いた。独立戦争後、大陸会議議員つづいてペンシルヴェニア州議会議員つづいて合衆国上院議員を勤める傍ら、大規模に各地に土地投機をおこなった。その利害からかれは、国内開発を提唱し、フィラデルフィア——ランカスター・ターンパイク会社の初代総裁でもあった¹⁷⁾。

15) Allen Johnson and Dumas et al., eds., *Dictionary of American Biography*, New York, 1928-1958 (以下、*DAB* と略記する)。Charles Page Smith, *James Willson Founding Farther 1742-1798*, The University of North Carolina Press.

16) *DAB*.

17) *DAB*. Henry Simpson, *The Lives of Eminent Philadelphians*, William Brotherhead, 1859, pp.86-88.

13) Chernow, *op.cit.* p.30-31.

14) Chernow, *op.cit.* pp.31-231.

このような人物が主要顧客であり、かれらは、主に土地投機に大きな利害をもつフィラデルフィアの大貿易商人である。このような人物が90年代も主要顧客として同銀行を利用していたと考えられる。したがって、同銀行の手形割引業務は、土地投機業に大きな利害を持つモリスを中心としたフィラデルフィアの大貿易商人の金融を支援していたと言うことができる。

ところで、手形割引依頼人が北アメリカ銀行に持ち込んだ手形の多くは、どのような性格の手形であったのか。すなわち、商品の流通の裏付けのある真正手形が同銀行に多く持ち込まれたのか、それとも融通手形であったのか。この点について少々考察しよう。

同銀行を設立した財務総監モリスの業務日誌およびモリスが商人とかわした書簡を検討してみると、次のような事例が見出される。

大口の割引顧客の一人であるニューヨーク商人Comfort Sands の場合である。かれは、商品を購入するための資金を獲得するために、モリスに手形の引受人になってもらう確約をとった上で、Comfort のフィラデルフィア代理店であるRichardson Sands を受取人としたモリス引受けの60日期限の為替手形を振出し、それをRichardsonに送り、かれにそれを北アメリカ銀行で割引かせるという事例が見出される¹⁸⁾。

さらにまた同じ事例であるが、財務総監モリスに資金の融通を申し出たニューハンプシャー出身のNewport の商人John Wendellに、モリスは、次のような手形割引の仕方を教えているのが見出される。すなわち、Wendell のフィラデルフィア代理店を受取人とし誰かフィラデルフィアの確固たる信用のある商人を引受け人として60日期限の為替手形を、Wendell が振出し、それをフィラデルフィア

の代理店に送り、その代理店に北アメリカ銀行に行かせ割引させる、そうすればその割引で得た資金で代理店はWendell の指示にしたがって商品を買うことができる、とモリスは述べている¹⁹⁾。

さらにまた、北アメリカ銀行総裁Thomas Willingの商用書簡を検討してみると、1785年8月5日付のJohn Wintherspoon という人物に宛てた書簡の中で次のような割引事例を見出すことができる。その中でWilling は次のように述べている。かれは、Wintherspoonが自分に公債the Bondを担保にした長期の借入を要請したが、当銀行の割引期間は45日以内であり、当銀行は公債を割引くということをしていないのでWintherspoonの要請には応じられない、とまず述べる。しかしWilling は、Wintherspoonに配慮したいと述べ、かれは、次のような方法をWintherspoonに教える。Wintherspoonは、公債を、当銀行に預金を持っている友人に渡し、その友人に60日期限のWintherspoon受取りの約束手形を振出してもらい、それをWintherspoonが当銀行に持ってくればわれわれは割り引くことができる、とWilling は述べる。さらに続けてWilling は、当銀行が事情が許せば、われわれはその割引をもう1回ないし2回まで更新することができる、と述べる²⁰⁾。

さらにまた、上述の主要顧客の一人であるThomas Fitzsimons の預金勘定帳と手形割引勘定帳の中のかれの手形割引欄とをつきあわせて考察してみると、北アメリカ銀行を受取人、かれを支払人とする約束手形をかれが割引依頼している事例、かれ以外の者が受取人となりかれが支払人となっている約束手形をかれが割引依頼している事例、さらに、手形の支払人名義は他人になっているが、実際にはその手形の満期日にはその割引依頼人であるかれが支払っている事例が見出される²¹⁾。

18) E. James Ferguson ed., *The Papers of Robert Morris 1781-1784*, Volum 1, University of Pittsburg Press, 1980, Vol.5, pp.41-42, 144. 以下、*Morris Papers*と略記する。

19) *Morris Papers*, Vol.5, pp.95-96.

20) Minutes and Letter Book, November 2, 1781-January 10, 1792(MSS).

21) Discount Ledgers, 1782-1784(MSS). Individual Ledgers(MSS).

それ故、以上検討してきた諸事例は、北アメリカ銀行に持ち込まれた手形の中かなりの融通手形があった事を示すものである。商人達は、取引先を通じて互いに融通手形をきりあい、それを北アメリカ銀行に持ち込み、割引で得た資金によって商品の購入あるいは商品投機それに土地投機を行ったものと考えられる。以上の考察からわかるように、北アメリカ銀行においては融通手形の割引が、かなり大きなウェイトを占めていたのではないかと考えられるのである。

ところで、北アメリカ銀行が手形割引業務によって貸付けをおこなっているということは、形式的には18世紀のイギリスで成立している真正手形理論の導入である。北アメリカ銀行をはじめとし、ニューヨーク銀行、マサチューセッツ銀行、第1次合衆国銀行などの建国初期の銀行が真正手形理論にもとづく商業銀行制度を採っていたことは周知のところである。このことが、今日のアメリカの多くの銀行が商業銀行制度をとっていることの遠因であることも周知のところである。それはともかくとして、真正手形理論は、商品流通の裏付けのある手形を割引いておれば、すでに商品は販売されているのであるから貸付資金の回収が確実であるということの故に銀行経営の安全性は高まるとする考え方である。しかし、真正手形理論をとるのでは貨幣不足の新興国アメリカにおいては不十分な資金しか供給できない。それ故、北アメリカ銀行をはじめとする建国初期の銀行は形式的にはイギリス型商業銀行制度をとりながらも、融通手形の割引をおこなっていたと考えられる。

従って、北アメリカ銀行は、制度的には割引業務を銀行業務の基軸とする近代的商業銀行であるが、実質的には、真正手形の割引が主流を占め間接的に産業資本の利害を媒介するといったイギリス型商業銀行とは異なっていたと言える。

「Loan to the State」は、州政府貸付金勘定であり、ペンシルヴェニア州政府に対する貸付金残高である。この時点で、21,676.71ドル

である。手形割引勘定とこの勘定とを比較してわかるように州政府への貸付はわずかである。

「Specie」は、正貨勘定であり、同行の保有する正貨である。この時点で、160,511.49ドルである。

「Balance in bk penns²⁾」は、Balance in Bank of Pennsylvania であり、ペンシルヴェニア銀行に北アメリカ銀行が預金している残高である。この時点でその残高は110,608.90ドルである。

「Balance in bk nyk」は、Balance in Bank of New York であり、ニューヨーク銀行に北アメリカ銀行が預金している残高である。この時点でその残高は、1,376.06ドルである。

2 資本・負債勘定について

「Amount of Stock」は、同行に払い込まれた資本金勘定である。正貨での払込みであり、1株400ドルである。同銀行の公称資本金は80万ドルであるが、この時点では、現実に払い込まれた資本金は、742,800ドルである。1786年時点においてであるが、資本金の1割がオランダ人の貸付資本家からの投資であった²²⁾。建国初期、オランダ貸付資本家のアメリカへの投資が多く見られた²³⁾。

「Notes in Circulation」は、銀行券流通高勘定であり、すなわち銀行券発行残高である。この時点において北アメリカ銀行券流通高は582,294.43ドルである。ここでわれわれが関心があるのは、発券準備率（正貨保有高÷銀行券発行残高）である。発券準備率をみると、この時点において28%である。この日付に近い1796年9月30日の第1次合衆国銀行の発券準備率をみてみると、正貨保有高346,621ド

22) Mathew Carey, Editor, *Debates and Proceedings of the general Assembly of Pennsylvania on the Memorials Praying a Repeal or Suspension of the Law Annuling the Charter of the Bank*, printed for Carey and Co., Sfeddon Pritchard, 1786, p.94.

23) 拙稿「建国初期のアメリカ国家財政とオランダ資金」『環境と経営』（静岡産業大学）第4巻第2号。

ル、銀行券発行残高1,507,421ドルであり、23%である²⁴⁾。第4表は北アメリカ銀行の発券準備率を1792年から1796年までの期間において示したものである。この表を見ると直ちにわかるように全体として発券準備率が高い。全期間の平均の発券準備率は約55パーセントに達している。現在考察している時点の発券準備率は平均発券準備率よりは低いのであるが、押し並べて見てみると、同銀行の発券準備率は高い。また研究史が明らかにしているように、1792年から1800年までの期間における第1次合衆国銀行の平均準備率は33パーセントであり²⁵⁾、北アメリカ銀行の平均準備率よりもやや低いが、1798年から1800年の期間の月日において70パーセント、80パーセント、90パーセントの準備率になっていることが研究史において明らかにされている²⁶⁾。したがって、第1次合衆国銀行も準備率が高い。建国初期の銀行は、全般的に発券業務において保守主義であったと研究史においていわれているが、このように資料から裏付けられる。発券準備率が高いということは、北アメリカ銀行の発券業務に対する最も主要な関心が銀行券の貨幣としての価値維持におかれていることを示すものである。これは、銀行券が常時正貨と兌換されることによって銀行券の価値を維持し、銀行券が正貨に代わって流通手段として使用されることをめざすものである。

それでは何故、発券業務において保守主義を採ったのか。これは、外に対して債務者、内に対して債権者としてのフィラデルフィア貿易商人の利害を守ることにあったと考えられる。建国初期の信用関係をみると、いまだ植民地時代と変わらず、ヨーロッパ商人とくにイギリス商人を起点にして、まずかれ

第4表 北アメリカ銀行の正貨保有額、銀行券発行高および発券準備率(1792-1796年)

(単位：ドル)

年 月 日	正貨保有額 (A)	銀行券発行 残高(B)	発行準備率 (A/B) (%)
1792年3月10日	397,357.12	796,498.44	49.88
1792年3月31日	138,710.90	737,145.9	18.82
1792年4月28日	202,308.55	650,550.63	31.09
1792年5月30日	233,988.55	566,874.8	41.27
1792年6月30日	278,032.47	575,928.38	48.28
1792年7月28日	284,094.18	575,923.91	49.32
1792年8月29日	295,503.26	580,587.2	50.89
1792年9月29日	332,487.54	598,449.50	55.55
1792年10月31日	324,058.46	593,375.42	54.61
1792年11月28日	282,120.72	562,904.11	50.12
1792年12月29日	234,890.29	531,299.34	44.21
1793年1月31日	217,158.30	514,940.64	42.17
1793年2月28日	237,188.25	503,816.11	42.14
1793年3月28日	268,687.15	516,777.93	52.05
1793年4月29日	387,875.22	552,865.27	69.61
1793年5月30日	425,122.89	514,682.60	82.60
1793年6月27日	444,675.98	490,943.60	90.58
1793年7月29日	301,456.84	511,777.60	58.90
1793年8月29日	367,255.52	537,644.27	68.31
1793年9月30日	451,366.81	568,394.83	79.40
1793年10月31日	438,112	580,574.60	75.46
1793年11月28日	466,109.75	509,463.90	91.49
1793年12月30日	462,600.98	468,039.76	98.84
1794年1月30日	453,501	475,056.29	95.46
1794年2月27日	447,779.28	477,193.39	93.84
1794年3月31日	439,310.66	491,643.39	89.36
1794年4月28日	480,683.31	449,730.73	106.88
1794年5月29日	471,670.77	456,912.7	103.43
1794年6月30日	432,213.21	501,579.7	86.17
1794年7月31日	440,522.60	536,527.3	82.11
1794年8月28日	456,217.26	480,174.4	95.01
1794年9月29日	441,722.85	544,549.1	81.12
1794年10月30日	414,440.30	572,528.9	72.39
1794年12月1日	376,653.9	557,598.45	67.55
1794年12月31日	292,215.46	543,282.92	53.79
1795年1月29日	291,713.38	538,199.19	54.20
1795年2月26日	202,335.87	539,953.38	37.47
1795年3月30日	174,625.5	560,328.14	31.16
1795年4月30日	202,574.30	627,109.48	32.30
1795年6月1日	199,646.11	639,670.4	31.21
1795年6月29日	182,675.85	606,130.8	30.14
1795年7月30日	144,634.68	617,976.62	23.40
1795年8月31日	151,820.72	583,826.85	26.00
1795年9月28日	133,273.50	577,928.66	23.06
1795年10月29日	147,427.86	580,131.33	25.41
1795年11月30日	190,023.31	562,978.79	33.75
1795年12月31日	167,178.44	558,274.44	29.95
1796年1月28日	146,734.13	620,592.77	23.64
1796年2月29日	152,492	685,140.74	22.26
1796年3月31日	140,849.17	731,181.91	19.26
1796年4月28日	141,433	733,367.15	19.29
1796年5月30日	167,943.71	649,852.5	25.84
1796年6月29日	162,873.16	622,843.66	26.15
1796年7月27日	154,083.81	582,162.68	26.33
1796年8月25日	160,511.49	582,294.43	27.57

出所：State of the Bank, 1792-1796, より作成

24) 拙稿「第1次合衆国銀行と州法銀行——北アメリカ銀行を中心として——」『環境と経営』(静岡産業大学) 第2巻第2号, 106 ページ。

25) 同論文, 同ページ。

26) 田島, 前掲書, 296-301 ページ。

27) Mathew Carey, Editor, *Debates and Proceedings of the general Assembly of Pennsylvania on the Memorials Praying a Repeal or Suspension of the Law Annuling the Charter of the Bank*, p.55-56.

らがアメリカ貿易商人に信用を与え、次にその信用を基礎にしてアメリカ貿易商人が農村の雑貨商人に信用を与え、次にその信用を基礎にして雑貨商人が農民あるいは手工業者に信用を与えるという、イギリス商人の信用を発条とする信用の連鎖が展開されていた²⁷⁾。従って、北アメリカ銀行に関係をもつフィラデルフィア貿易商人は、ヨーロッパ商人とりわけイギリス商人に対しては債務者であり、国内においては債権者であった。そこで、もしフィラデルフィア貿易商人が減価した銀行券で債務者から支払われた場合、フィラデルフィア貿易商人がその銀行券で購入する外国為替手形（ロンドン宛為替手形）の価格は騰貴することになる。外国為替相場の悪化である。このことは、かれらの利害に反することになる。それ故、かれらが銀行券の価値維持に注意を払うのは当然であり、かれらが関係する北アメリカ銀行が経営上注意を払うべき関心事は銀行券の価値維持にならざるをえない。したがって北アメリカ銀行の発券業務は保守的にならざるをえない。しかし、発券業務において保守主義を採っているのはこのような理由ばかりでなくもっと高所の観点からであったと考えられる。建国期の政治・経済をリードしたロバート・モリスやアレグザンダー・ハミルトンなどのフェデラリストは、

兌換紙幣こそが、堅実な経済発展を保証するものであると考えたものと思われる。何の裏打ちもない内在的な価値をもたない紙幣は、独立戦争期および戦後の不況期の経験が示すように²⁸⁾、急激な減価を引き起こし、価値不安定な通貨にならざるをえない。それ故、人々は、そのような通貨を長く保持すれば、すればするほど減価するので、長期間保持しようとはしない。モリスは次のように述べる。邦債を償還するために不換紙幣である邦政府紙幣が発行されたが、それは減価した。減価した紙幣を受け取った公債所有者はすぐにそれを商人に手渡した。関税の支払いを遅滞している商人は、その紙幣でその関税を支払うが、実質的には遅滞額よりも少ない価値で支払った。我々はこのぐらい長く他を利するために、社会の一方から奪いとっているのか。減価の疑惑を引き起こす不換紙幣の流通は必然的に早い。このようにモリスは述べる²⁹⁾。そして、このような状態が、勤労と節約の以前の習慣にわれわれを置く、とモリスは述べている³⁰⁾。それ故、そのような通貨を受け取った人々はそれを早く処分しようとする。したがって、そのような通貨は、投機と消費をあおるだけである。そのような通貨は非再生産的経済を生みだすだけである。支出を差し控え、貯蓄し、それを投資に向け、生産活動

28) 注1)で述べたように大陸会議は、独立戦争遂行の戦費として不換紙幣である大陸紙幣を発行し、この大陸紙幣の発行に大陸会議財政は大きく依存した。しかし大陸紙幣は、その大量発行によって、急激な減価を引き起こし、通貨としての機能を果たさなくなった。その結果、公信用は失墜した。また同時に邦政府も、独立戦争遂行の戦費として不換紙幣である邦紙幣を発行したが、大陸紙幣と同様、急激な減価を引き起こした。また戦後、各邦は、戦後不況の中で、各邦が負っている戦時債務（邦債）の償還のために邦政府紙幣を発行した。また、邦は貸付局を通じて住民に土地担保をとって邦政府紙幣で貸し付けた。しかし、邦紙幣は減価した。ロードアイランド邦では、邦政府紙幣を額面価値で受入れなければ、罰則を課し、さらに邦債の償還に際し額面価値で減価した邦政府紙幣を受入れなければ、その邦債は支払い拒絶されるという法律までも可決した。このような一連の事態は、債権者の利害を損ねるものであり、しかも財産権の否定にもつながるものであった。E. James Ferguson, *The Power of the Purse: A History of American Public Finance, 1776-1790*, the University of North Carolina Press, Chapel Hill, pp.1-105. / Edwin J. Perkins, *American Public Finance and Financial Services 1700-1815*, Ohio State University Press, Columbus, 1994, pp.137-196. / E. James Ferguson, *The American Revolution: A General History, 1763-1790*, The Dorsey Press, 1979, pp.265-325. / Irwin H. Polishook, *Rhode Island and the Union 1774-1795*, Northwestern University Press, Evanston, 1965, pp.131-162.

29) Mathew Carey, Editor, *Debates and Proceedings of the general Assembly of Pennsylvania on the Memorials Praying a Repeal or Suspension of the Law Annulling the Charter of the Bank*, pp.42-43.

30) *Ibid.*, p.82.

31) このような考え方は、Janet A. Riesman, "Money, Credit, and Federalist Political Economy", pp.128-161. in Richard Beeman, Stephen Botein, and Edward C. Carter II ed., *Beyond Confederation: Origins of the Constitution and American National Identity*, The University of North Carolina Press, 1987. から示唆を受けた。

を高めるといふ健全な経済発展には結びつかない。しかし、内在的な価値を持つ通貨であるならば、そのような通貨は減価しないから、価値貯蔵手段として機能する。したがって、人々は、それを受け取るならば、それを早く処分しようとは考えないで、支出を差し控え、貯蓄しようとする。そして蓄積された貨幣資本を生産的投資に向けることができる。それ故、健全な経済発展に結びつく通貨は、内在的な価値を持つ通貨である³¹⁾。そこで内在的な価値を持つ通貨とは何かとなれば、正貨に裏打ちされた兌換紙幣しかない。そこで常時正貨と兌換できる体制をとることによって兌換紙幣の価値を維持しておくことが必要である。そのためには正貨準備を厚くしておかなければならない。したがって北アメリカ銀行をはじめとする建国初期の銀行の発券業務は保守的にならざるをえない。このような観点からも高い発券準備率政策を北アメリカ銀行は採ったものと考えられる。

「Balance due Bk US」は、第1次合衆国銀行が北アメリカ銀行に預金している勘定であり、その残高を示すものである。この時点で94,194.80ドルである。

「Discount」は、手形割引収入勘定である。この時点で14,474.78ドルである。

「Deposit Money」は、預金勘定であり、この時点での預金残高を示すものである。この時点での預金残高は、603,141.42ドルである。預金は、正貨、銀行券、帳簿信用からなっている。

個人の預金勘定、たとえば、上述したフィラデルフィア商人Thomas Fitzsimons やWilliam Binghamの預金勘定を分析してみると³²⁾、正貨の預け入れ、銀行券の預け入れ、同銀行が本人に対しておこなった手形割引額の記入すなわち帳簿信用、そして本人が受取人となっている手形を本人が同銀行に預け入れ、満期日にその手形の支払人の預金勘定から受取人の預金勘定に振替えられる事例が見

られる。したがって、預金は本源的預金および帳簿信用、帳簿振替からなる派生的預金からなっていた。さらにかねらの預金勘定を分析すると、預金の引出し側においては、本人の預金引出しの他に、本人が支払人となっている約束手形、為替手形、小切手にたいする支払いがみられる。その場合、帳簿振替と持参人払いがみられるが、持参人払いは少ない。以上のように、帳簿信用および帳簿振替が見

第5表 北アメリカ銀行の銀行券発行残高と預金残高(1792-1796年)(単位:ドル)

年 代	銀 行 券	預 金
1792年 3月10日	796,498.44	845,397.93
1792年 3月31日	737,145.9	750,849.53
1792年 4月28日	650,550.63	786,839.53
1792年 5月30日	566,874.8	859,575.52
1792年 6月30日	575,928.38	979,256.93
1792年 7月28日	575,923.91	1,143,064.22
1792年 8月29日	580,587.2	1,151,358.10
1792年 9月29日	598,449.50	1,104,454.15
1792年10月31日	593,375.42	1,086,526.62
1792年11月28日	562,904.11	1,026,910.60
1792年12月29日	531,299.34	952,944.62
1793年 1月31日	514,940.64	1,019,670.79
1793年 2月28日	503,816.11	945,400.56
1793年 3月28日	516,173.93	902,957.17
1793年 4月29日	552,865.27	979,822.71
1793年 5月30日	514,682.60	903,841.53
1793年 6月27日	490,943.60	893,839.6
1793年 7月29日	511,777.60	686,376.11
1793年 8月29日	537,644.27	661,638.82
1793年 9月30日	568,394.83	656,198.27
1793年10月31日	580,574.60	624,577.75
1793年11月28日	509,463.90	660,571.13
1793年12月30日	468,039.76	679,616.75
1794年 1月30日	475,056.29	725,678.13
1794年 2月27日	477,193.39	775,908.2
1794年 3月31日	491,643.39	709,695.67
1794年 4月28日	449,730.73	818,125.89
1794年 5月29日	456,912.7	852,264.51
1794年 6月30日	501,579.7	876,466.84
1794年 7月31日	536,527.3	906,242.98
1794年 8月28日	480,174.4	919,873.69
1794年 9月29日	544,549.1	882,140.64
1794年10月30日	572,528.9	824,185.53
1794年12月 1日	557,598.45	809,241.50
1794年12月31日	543,282.92	766,388.37
1795年 1月29日	538,199.19	746,070
1795年 2月26日	539,953.38	653,725.42
1795年 3月30日	560,328.14	556,072.19
1795年 4月30日	627,109.48	590,941.65
1795年 6月 1日	639,670.4	627,709.98
1795年 6月29日	606,130.8	627,497.77
1795年 7月30日	617,976.62	604,021
1795年 8月31日	583,826.85	572,115.35
1795年 9月28日	577,928.66	530,702.66
1795年10月29日	580,131.33	513,797.43
1795年11月30日	562,978.79	526,358.85
1795年12月31日	558,274.44	531,259.85
1796年 1月28日	620,592.77	642,439.64
1796年 2月29日	685,140.74	616,274.99
1796年 3月31日	731,181.91	520,862.99
1796年 4月28日	733,367.15	501,808.99
1796年 5月30日	649,852.5	591,948.54
1796年 6月29日	622,843.66	586,052.55
1796年 7月27日	582,162.68	639,219.33
1796年 8月25日	582,294.43	603,141.42

出所: State of the Bank, 1792-1796, より作成

32) Individual Ledgers, 1782-1784(MSS).

出されることは、預金が通貨として機能していたことを示すものである。第1表の同行の貸借対照表をみると、銀行券発行残高よりも預金残高のほうが大きい。この傾向は同行の特徴である。第5表は、1792年から1796年の期間の同銀行の銀行券発行残高と預金残高の推移を示したものである。これを見てわかるように、銀行券発行残高よりも預金残高のほうが大きい傾向を示している。これは、預金が通貨として機能し、同銀行が、単なる信用仲介機能だけでなく、預金の信用創造機能をも果たしていることを示すものである。19世紀中頃において、ボストン、ニューヨーク、フィラデルフィアなどの東部の海港諸都市の銀行は、預金業務を主要業務とし、帳簿信用にもとづく貸付による信用創造をおこない、一方、地方の銀行は発券業務を主要業務とし、発券による信用創造をおこなう、という分業体制ができあがるが、その前者の起源がここに見られる。

Ⅲ む す び

以上、アメリカ建国初期の代表的な銀行である北アメリカ銀行の1796年8月25日付貸借対照表を中心として、その若干の考察をしてきた。同銀行は、手形割引業務を通じて土地投機業に大きな利害を持つモリスを中心とした特定のフィラデルフィアの大貿易商人の金融を支援していたこと。同銀行は、形式的には真正手形理論にもとづくイギリス商業銀行制度を採りながらも、実態は融通手形の割引が多く見出され、その更新がおこなわれていたこと。何故、融通手形の割引がおこなわれたのかは、真正手形理論をとるのでは貨幣不足の新興国アメリカにおいては不十分な資金しか供給できないからであるということ。同銀行は、正貨準備が厚く発券業務において保守主義をとっていること。何故、保守主義をとっているかということ、フェデラリストは兌換銀行券が健全な経済発展を保証するという考えをもったこと。同銀行においては預金が通貨として早くから機能していたこと。以上の諸点を明らかにした。